

同窓会あれこれ

嚶鳴同窓会会長 鈴木 よし子

二年を経過した新型コロナウイルスによる社会の停滞に加えて、このところの大雪。何ともつらい日々が続いておりますが、会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。日頃同窓会活動に暖かいご支援、ご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

さて、ここにコメントを書かせていただきますのも最後の時がまいりました。私と青木智子、奥山潤子両副会長の三人で同窓会の運営を担当してから7年がたちました。二期6年で終える予定が、昨年はコロナ禍による活動休止状態が続き、やむなく変則的な1年だけの延長をさせていただき、今、ようやく引き継ぎの準備が整いました。4月からは、会長 小笠原悦子さん（昭和50年卒）、副会長 富樫京美さん（昭和53年卒）、齋藤明美さん（昭和54年卒）の三人が新三役として会の運営にあたってくださいます。何卒これまで同様のご支援、御協力をお願い申し上げます。

振り返ってみると、スタートしてすぐの評議員会で総会チケットの値上げ（勿論、前会長さん方の準備を受けてのことでしたが）、その後会費そのものの値上げと、値上げばかりやって皆様にはご迷惑をおかけしたかもしれません。ただ、今までよくぞ少ない会費でやってきてくださったと先輩方のご苦勞に感謝するとともに、生徒数が1学年200名まで減ってきた現在の学校の体制を考えると、もう少し我々が協力して予算規模

を拡大しておかないとこれから先の活動が立ち行かなくなるとの見通しからでした。また予算決算の会計の枠組みが分かりにくくなっていましたので、誰が見ても分かり易い簡明なものに組み替えることに着手しました。まだ完成形ではないかと思しますので、今後も新役員の方々に検討をお願いしたいと思っております。

ほかには、生徒卒業時の表彰内容の拡充、特にスポーツ文化活動で全国レベルの結果を出した方への同窓会特別活動賞をつくりました。素晴らしい活躍を広く知ってもらいたいという思いからです。また 任期中に120周年の節目の年が巡ってきて、記念事業に参加し、同窓会としては主として記念誌作成を担いました。

いつも私達を支えて下さいました事務局の先生方に厚く御礼を申し上げます。忙しい校務に加えて同窓会の仕事をお願いし、本当に申し訳なく感じる場面が多々ありました。先生方のご負担を緩和する体制づくりをしなければいけないと思いながら、会計の充実が先決問題で果たさずに終わりました。次に続く人たちがこの課題を検討して下さいることを望みます。

時代と共に同窓会も柔軟に変化していかなければなりません。それには何よりも会員同士の意見交換が活発に行われなければなりません。自由に議論し、風通しの良い嚶鳴同窓会が続いていくことを心から願い、最後のご挨拶といたします。この7年間のたくさんの出会いは楽しく幸せな思い出です。お世話になりました、有難うございました。